村田　蔵六（1825～1869）

蘭学者。軍略家。周防国吉敷郡鋳銭司村（現、山口県山口市）出身。後の大村益次郎。梅田幽斎や広瀬淡窓、緒方洪庵などに師事して蘭学を学ぶ。嘉永６（1853）年、宇和島藩主・伊達宗城に招かれ蘭学の普及、軍艦や砲台の建造に従事した。後、長州藩士となり藩内の蘭学教育を行い、文久元（1861）年から３年の江戸詰のおりには井上聞多（馨）、伊藤俊輔（博文）のイギリス留学に尽力した。帰藩後は軍政の中枢に身を置き、武器の近代化や軍事組織再編の指導者として活動した。維新後は明治政府において軍防事務局判事、軍務官判事、軍務官副知事などを歴任、明治２（1869）年７月に兵部省が設置されると同時に兵部大輔に就任して新政府の軍政事務で活躍した。

略 歴

文政８（1825）年５月３日	周防国吉敷郡鋳銭司村に生まれる（文政７年３月10日、同年５月３日とする説もある）。
天保13（1842）年	梅田幽斎に蘭学を学ぶ。
天保14（1843）年	豊後国日田郡（現、大分県日田市）の広瀬淡窓の咸宜園に入門
弘化３（1846）年	大坂（現、大阪府）の緒方洪庵の適塾に入門
嘉永６（1853）年	宇和島藩主・伊達宗城の招きにより、宇和島へ赴く。
安政３（1856）年３月	藩主の参勤交代に随行し、江戸（現、東京都）に出る。
11月１日	江戸番町に蘭学塾鳩居堂を開く。
万延元（1860）年４月26日	長州藩に馬廻士に準じて召し抱えられ、長州藩士となる。
文久元（1861）年～３年	江戸詰となり、この間井上聞多（馨）、伊藤俊輔（博文）のイギリス留学に尽力
元治元（1864）年	四国艦隊下関砲撃の善後処理のため交渉に当たる。
慶応元（1865）年12月22日	藩命により、大村益次郎と改名
明治元（1868）年１月	毛利元徳（長州藩主の嫡子）に従い上洛
２月	軍防事務局判事加勢として維新政府に出仕。 以降、軍防事務局判事、軍務官判事、軍務官副知事などを歴任
閏４月	江戸に赴き江戸府判事を兼務
５月	上野の彰義隊討伐を指揮
明治２（1869）年７月	兵部省が設置されると同時に兵部大輔に就任
11月５日	出張中の京都で不平士族の襲撃に遭ったことがもとで、入院中の大阪の病院において45歳で永眠

（肖像画（キヨソーネ筆）：山口市歴史民俗資料館蔵）

〈関連図書〉

・大村益次郎先生伝記刊行会『大村益次郎』　肇書房　1944年
・絲屋寿雄『大村益次郎』　中央公論社　1971年
・土橋治重『大村益次郎』　国土社　1977年
・柚木象吉『母と子の世界の伝記　大村益次郎』　集英社　1977年
・松永義弘・成瀬数富『大村益次郎』　あかね書房　1977年
・司馬遼太郎『花神』　新潮社　1993年
・内田伸『大村益次郎写真集』　鋳銭司郷土館　1993年
・『平成９年企画展　伊予の蘭学』　愛媛県歴史文化博物館　1997年
・稲葉稔『大村益次郎』　ＰＨＰ研究所　1998年

〈ゆかりのある場所〉…（P268，17～18）

〈関連施設〉…鋳銭司郷土館

〒747-1221　山口県山口市鋳銭司1422　TEL：083-986-2368